

世界で活躍する土木技術者シリーズ 第3回シンポジウム開催報告

2014年12月3日に土木学会国際センター主催の“世界で活躍する土木技術者シリーズ”第3回シンポジウム「パハン・セランゴール導水トンネル」を開催しました。

本シンポジウムでは、日本の建設企業による海外大型プロジェクトが、当該国のみならず広く評価されている現状をとらえ、日本の土木技術および土木技術者の活躍を広く知っていただき、また将来の日本を担う若者たちにインフラ整備の意義や海外での仕事などを伝えるため、海外プロジェクトと、そこで活躍する土木技術者の紹介を行っております。

今回のシンポジウムは山川国際センター長代行の開会挨拶に始まり、清水建設の松井雅志氏の進行のもと、前半は基調講演として、本プロジェクトの舞台であるマレーシアにて日本国特命全権大使を務められた中村滋氏によるご講演のほか、本プロジェクトの発注者であるマレーシア政府のエネルギ―・環境技術・水資源省の事務次官である Datuk Loo Took Gee 氏からのビデオレターの紹介が行われました。また後半は実際にプロジェクトを遂行された清水建設の北直紀氏、河田孝志氏、松本高之氏、松下文哉氏の4名の土木技術者の方々からプロジェクトの概要をはじめ、受注までの経緯、また東南アジア最長のトンネル工事における様々な難局への対応などについて実際のエピソードを交えながらご講演をいただきました。最後に上田国際センター長より閉会挨拶をいただき、シンポジウムは閉会しました。



ビデオレターの紹介



講演の様子

今回のシンポジウムには120名を超える参加をいただき、質疑応答では活発な意見交換が行われるなど、たいへん盛会でした。

国際センターでは“世界で活躍する土木技術者シリーズ”として今後も継続的に海外プロジェクトを対象としたシンポジウムを開催する予定としております。

【記 土木学会国際センター】

※掲載報告記事の所属、肩書はイベント開催当時のものです。